

令和5年度 学校運営連絡協議会実施報告書

1 組織

- (1) 都立三宅高等学校 学校運営連絡協議会（全日制課程）
- (2) 事務局の構成 経営企画室長、主幹教諭(教務主任兼務)=事務局長、教諭1名 計3名
- (3) 内部委員の構成
校長、副校長、経営企画室長、主幹教諭（教務担当）
主任教諭（生活指導担当、進路指導担当）、教諭（総務部担当）
計7名
- (4) 協議委員の構成
近隣中学校長1名、近隣小学校長1名、同窓会代表1名、教育庁三宅出張所副所長1名、三宅村教育課長1名、三宅村社会福祉協議会事務局長1名、PTA会長1名、PTA副会長1名
計8名

2 令和5年度学校運営連絡協議会の概要

- (1) 学校運営連絡協議会（第1～3回）の開催日時、出席者、内容、その他
 - 第1回 令和5年6月2日（金）視聴覚室
 - ・協議委員委嘱、委員紹介、評価委員の選出
 - ・学校経営計画、昨年度の学校運営連絡協議会の課題
 - ・本校の現状と課題
 - 第2回 令和5年11月17日（金）視聴覚室
 - ・これまでの教育活動に関する報告
 - ・協議委員からの教育活動に対する意見、
 - ・学校評価アンケートの内容検討、協議
 - 第3回 令和6年 2月9日（金）視聴覚室
 - ・これまでの教育活動に関する報告
 - ・学校評価アンケートの集計結果について
 - ・次年度に向けた教育活動の方向性の確認
- (2) 評価委員会の開催日時、会場、出席者、内容、その他
 - 第1回 令和5年11月17日（金）視聴覚室 内部委員1名、協議委員3名
 - ・学校評価の基本方針の確認
 - ・今年度の学校評価の実施に向けた方針の検討
 - ・今年度の学校評価項目の内容の検討、実施時期の検討
 - 第2回 令和6年 2月9日（金）本校視聴覚室 内部委員1名、協議委員3名
 - ・アンケート集計結果の分析・考察、課題の整理
 - ・評価報告書の検討

3 学校運営連絡協議会による学校評価（学校評価報告）

- (1) 学校評価の観点
「学校への理解」「学校の意欲」「学校の実践」の観点で実施した。
- (2) アンケート調査の実施時期・対象・規模

・12月	全校生徒	対象：24人	回収：24人	回収率100%
・12月～1月	保護者全員	対象：21世帯	回収：11世帯	回収率52%
・12月～1月	教職員	対象：33人	回収：33人	回収率100%
・12月～1月	地域・住民	対象：全島1,470世帯	回収：54人	回収率3.7%
- (3) 主な評価項目
・学校運営、学習指導、生活指導、進路指導、特別活動・部活動、健康・安全、施設・設備、学校行事、家庭学習時間、ライフワークバランスの推進など
- (4) 評価結果の概要（学校及び校長への意見・提言内容）
 - ・保護者・地域の方については、今回もQRコードを併用して回収するとともに、三宅支庁や三宅村役場の総務課にメールでアンケート回答の依頼をかけたことにより回収率が上がった。（保護者は11分の10、地域の方は54分の26がQRコードを利用して回答）
 - ・学校としてさらに取り組む必要があるものとして、学習指導と進路指導（進学指導・就職指導）があげられ、地域、保護者とも同様の回答結果であった。保護者については昨年度まではあげられなかった生活指導への期待が2割ほど寄せられた。
- (5) 評価結果の分析・考察（学校及び校長への意見・提言）

【地域】

- ア) 生徒の生活指導（身だしなみ、挨拶、マナー等）については、概ね8割以上の方から肯定的な回答が得られた。
- イ) 保護者や地域との連携については7割を超える肯定的な回答がみられたものの、1割強の方が「わからない」を選択しており、高校の取組をさらに地域に伝えていく必要がある。
- ウ) 今後、高校に期待する教育活動として「人生設計を考えさせる進路指導（キャリア教育）」「学力向上を目指し、進学を目指した学習指導の充実」「地域への貢献」が上位3項目にあげられた。
なお、キャリア教育や学習指導の充実については、例年と変わらず期待する割合が高い。今回初めて項目に加えた「グローバル人材の育成」が14%と大きな割合を占めており、期待度が高いことがうかがえる。

【保護者】

- ア) 18項目中14項目において、肯定的な回答が昨年度を上回った。
- イ) 肯定的な回答が昨年度を下回った項目は以下の4項目であった。
「生徒と学校生活や進路等についてよく会話する」100% → 90%
「生徒の家庭学習の時間は十分である」80% → 45%
「学校は、頭髪・服装の身だしなみ等、基本的な生活習慣を身につける指導をしている」90% → 82%
「三宅高校は施設・設備の充実に取り組んでいる」80% → 72%
- ウ) 肯定的な回答が8割以下となった項目は以下の2項目であった。
「生徒の家庭学習の時間は十分である」45%
「三宅高校は施設・設備の充分に取り組んでいる」72%
生徒アンケートで学習時間が30分未満の生徒が50%となっていることから、学習習慣が身に付いていないことが改めて浮き彫りになった。また、今後、施設の老朽化に対応していく必要がある。
- エ) 学習指導、進路指導、部活動その他、健康・安全指導、いじめ防止、保護者・地域連携、情報発信の項目については、肯定的な回答が上昇しており、保護者の満足度がうかがえる。

【生徒】

- ア) 肯定的な回答が7割を下回る項目が25項目中（うち3項目は対象外）下記の4項目であった。
「【努力】私は、授業等で難しいことにチャレンジしている」63% (47%) ※()内は昨年度
「私は、学校生活に満足している」62% (56%)
「三宅高校は、保護者や地域との連携を大切にしている」66% (30%)
「私は、朝読書には自主的に取り組んでいる」46% (43%)
- イ) 肯定的な回答が昨年度を下回った項目は下記の3項目であった
「私は、三宅高校に入学して、できなかったことができるようになるなど成長を感じる人が多い」71% (74%)
「三宅高校には、生徒の意見に耳を傾け、悩みや相談に親身になって応じてくれる」84% (92%)
「三宅高校の施設・設備の充実に取り組んでいる」71% (74%)
- ウ) 学習指導、生活指導、いじめ防止、部活動、健康・安全指導、情報発信については、肯定的な回答が上昇している、かつ、概ね8割を上回る回答となっており、生徒の満足度がうかがえる。
なお、進路指導については、例年肯定的な回答が95%を超えており、今年度も生徒の満足度は高い結果となっている。

【教職員】

- ア) 全体を通して肯定的な回答の割合が8割を上回っている項目が多い。(22項目中21項目)
- イ) 昨年度、生徒との乖離の大きかった「生徒は、学校生活に満足している」の項目については、生徒の回答と教職員の回答との乖離は小さくなっている。
生徒62%(56%) ・ 教職員82%(91%) ※()内は昨年度
- ウ) 昨年度と比較して肯定的な回答が大きく下落した項目
「【継続】生徒は、何事もあきらめず努力を継続している」64% (83%)
「三宅高校は施設・設備の充実に取り組んでいる」69% (85%)
努力の継続については、生徒の意欲に関わるものであるが、教員の支援や指導も必要である。施設・設備の充実については、保護者及び生徒の回答からも課題として読み取れるため、改善していく必要がある。
- エ) 学校としてさらに取り組む必要があると考えられるものは、教科指導と生活指導で、昨年度と比べて生活指導の必要性を感じている点は、保護者アンケートの結果と同様となっている。

4 学校運営連絡協議会の成果と課題（学校の自己評価へ反映）

(1) 学校運営連絡協議会を実施して得られた成果

- ・ 地域及び保護者の意見を直に聞き学校運営に反映させることで、生徒の学習時間の少なさや、読書時間の少なさの問題が浮き彫りになり、学校の問題を共有することができた。

- ・村営バスの時間変更など、生徒の帰宅時間に関わる変更等についても、タクシーを借り上げて乗り合わせで帰宅させるなど、学校関係者では考え付かない発想で解決策を検討することができた。
 - ・オンライン国際交流の取組や三宅村産業祭などの地域との連携については高評価を得られており、もっと取組についてアピールすべきだとの意見があった。
- (2) 学校運営連絡協議会を実施して明らかとなった課題
- ・基礎学力の定着のために、どの段階で何をどこまで定着させるか等について、小中学校と更なる連携を図る必要がある。
 - ・中学生向けの進路ガイダンスや体験授業の実施を通して、高校での生活や進路指導の成果について理解を深めてもらい、生徒数確保につなげる必要がある。
- 5 学校運営連絡協議会及び学校評価を活用した教育活動の改善事項（学校経営計画へ反映）
- (1) 学校運営
- ・キャリア教育を充実させて、生徒の学力向上・希望進路実現に向けた活動を工夫する。
 - ・行事や部活動等の特別活動で、一人一人の能力を高める教育活動を実施する。
- (2) 学習指導
- ・海外学校間交流やオンライン国際交流を推進し、グローバル人材の育成に力を入れる。
 - ・一人一台端末を活用し、学びの質の向上を目指した授業改善を図っていく。
 - ・授業や補習を実施して基礎学力を定着させるとともに、進学に向けた学力向上を目指す。
 - ・体験授業等、島しょ地域の強みを生かした特色のある授業の実施により、生徒の学習意欲の向上を図る。
- (3) 生活指導
- ・いじめ防止の観点から、教育相談委員会等の活動を充実させるとともに、普段から生徒の観察を怠らないようにする。
 - ・特別支援教育的な視点から個別指導を実施し、生命尊重の視点に立った生活指導を徹底する。
 - ・部活動や学校行事を通して、公共的なマナー、危険回避能力や体力の向上を図る。
- (4) 進路指導
- ・3年間を通したキャリア教育を確立し、進路選択の幅を広げ、生徒の進路決定力を高める。
 - ・進路ガイダンスやインターンシップを通して都内企業・地域との交流を行い、生徒の進路決定につなげる。
 - ・個別面談や小論文指導等の補習を充実させる。
 - ・教務部及び進路指導部を中心に、学力向上委員会を開催し、就職及び進学に向けたケース会議を充実させる。
- (5) 地域活動
- ・異校種間交流実施など、三宅村の教育機関との連携をさらに強化する。
 - ・産業祭での農業生産品販売など、島の行事に積極的に参加し、郷土愛を涵養する。
 - ・教科（人間と社会）において、自らの生き方を学ぶ生徒を育成する。
 - ・引き続き「学校だより」を島内全家庭に配布する。
 - ・三宅高校ホームページの更新等を通じて情報発信を強化する。
- 6 職員会議及び企画調整会議への協議委員の参加実績及び成果
今年度の職員会議及び企画調整会議への協議委員の参加はなし。
- 7 その他
- ・引き続き、学校評価アンケートの項目にグローバル人材の育成を盛り込むことで、島民の学校教育へのニーズを確認する。
 - ・評価精度の更なる向上のため、学校の取組について HP の更新回数を増やすなど、島民への広報の機会を増やす。